

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス（2023年12月～2024年2月）

日付	場所	できごと
12月～2月	野外施設	野鳥観察シーズン到来 クロジやリビタキなど毎年人気の冬鳥のほか、この冬は、アカゲラ、カケス、トラツグミなどが頻繁に目撃されていました。
1月20日	N12付近	キクザキイチゲ、ニリンソウ開花
1月26日	Y3付近	ヤマアカガエル卵塊初認 卵塊の初認日としては例年通りでしたが、一斉に産卵するというより少しずつ卵塊が増えていきました。
2月28日	Y23付近	アズマヒキガエルのカエル合戦 3月の産卵が多いですが、今年は少し早めでした。

センサーカメラにうつった
トラツグミ

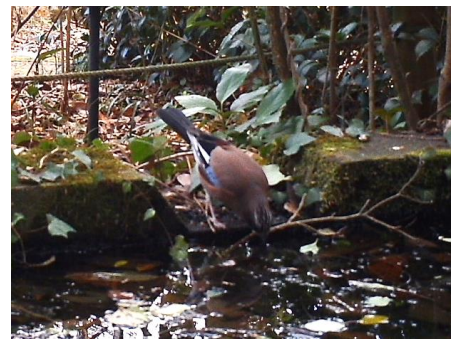
＜水場に集まる動物たち＞

園内にある10㎡ほどの小さな人工の池にはクロスジギンヤンマのヤゴやアカハライモリが生息しています（第21号参照）。その池の縁や水の中には、たびたび哺乳類の糞が残されていることもありました。さまざまな生き物が来ているのではないかと期待からセンサーカメラを設置してみました。

1月から2か月間撮影した結果、哺乳類はハクビシンがもっとも頻繁に映り、その他アライグマ、テン、アナグマ、ネコ、ネズミの仲間が確認されました。鳥類はキシバト、シメが多く、その他にヒヨドリ、シロハラ、トラツグミ、ツグミ、ガビチョウ、イカル、カケス、アオジが確認されました。種類は野外施設全域でみられている「いつものメンバー」といった感じでしたが、地表に近い場所にカメラを設置したことで、通常は樹上にいて間近には見られないカケスやイカルなどの鳥たちが入れ替わり立ち代わり水を飲みにやってくる様子がみられました。木々に囲まれた小さな水辺は、生き物たちにとって安心して使いやすい場所なのかもしれません。季節による変化を観察したり、動画撮影などもやってみたいと思います。

水の中を探る
アライグマ

池の縁を歩くテン



水を飲むカケス



OVISION

P

2024.02.07

キシバト

自然観察園の池3と池5では、今年度から農林水産省関東農政局のアメリカザリガニ駆除調査に協力しています。令和5年度の調査の成果について報告がありました。

条件付特定外来生物

アメリカザリガニの駆除調査を行っています

調査主体 農林水産省関東農政局

現在、水田や農業用ため池では、アメリカザリガニが無数の巣穴を掘ることによって漏水被害が引き起こされたり、水稻が食べられてしまう等の被害が発生しており、農業生産活動に大きな支障をきたしています。このため、農林水産省は、全国各地のため池や排水路で調査を実施し、アメリカザリガニの被害を抑えるために、いつ・どのような方法で駆除すればよいのか検討しています。関東農政局では、令和5年度から、神奈川県自然環境保全センターの自然観察園内のため池において調査を実施しています。今回の号では、令和5年度に実施した調査の成果を報告します。

駆除方法

2つの池で計15回実施

- ①連続捕獲装置※（7基）
エサでおびき寄せるワナ
 - ②人工水草※（2基）
水草に隠れる習性を利用したワナ
 - ③タモ網（延べ2時間）
網ですくい取る方法
- ※池の中に一定期間放置する

捕獲したザリガニは計数し、
サイズ・雌雄・抱卵の有無を確認



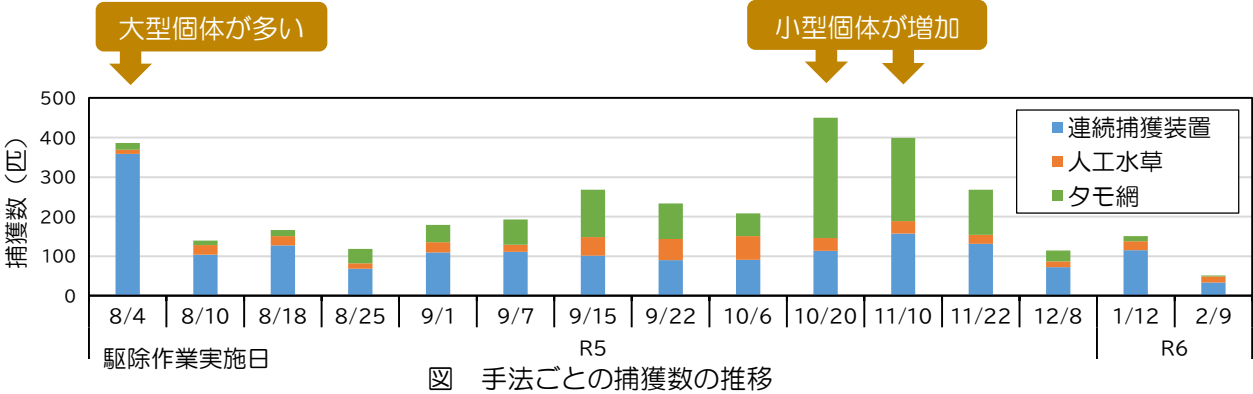
連続捕獲装置の原理

明るいカゴ（エサ設置）＋暗いカゴ

エサにおびき寄せられたザリガニは暗いカゴへ移動するため、エサ場が常に空いており、次々と新しいザリガニがやってきます。

※NPO法人シナイモツゴ郷の会特許取得

駆除結果



令和5年度の調査結果では・・・

- 連続捕獲装置 大型～中型個体の捕獲に有効。特に、生息密度が高い駆除初期は効果抜群。
- タモ網 抽水植物に隠れている小型個体の捕獲に有効。10～11月頃が狙い目。
- 人工水草 ふ化したばかりの稚ザリガニや小型個体の捕獲に有効。

アメリカザリガニは、一度の産卵で200～1000個の卵を抱えるため、個体数を減少させるには、抱卵している雌のザリガニを駆除することが重要です。しかし、今回の調査では、抱卵個体の捕獲数はゼロでした。令和6年度は、抱卵個体の効果的な捕獲方法を調査する予定です。

また、駆除調査と併せて、池の中に生息する生きものを調査しました。アメリカザリガニは水草を切断し、水生昆虫等を捕食する等、生態系にも大きな影響を与えています。アメリカザリガニの個体数の減少によって、水草が生える、水生昆虫等の生きものの数が増える等の変化があるか、令和6年度からモニタリング調査する予定です。



調査の詳細については、夏ごろに自然環境保全センター2階の「ブナの森ギャラリー」でポスター展示を行う予定です。ぜひご覧ください。

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、HPで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

2023年11月～2024年1月の救護実績

受け入れ総数は、33頭羽（鳥類31羽・哺乳類2頭）でした。

救護件数上位種	
種名	件数
ヒヨドリ	4
メジロ	4
キジバト	3
インヒヨドリ	3
フルマカモメ	2
ツグミ	2
スズメ	2
タヌキ	2

主な救護原因(人為的要因による)			
鳥類の原因		哺乳類の原因	
鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数
ガラス窓等への衝突	7	交通事故	1
粘着剤、モルタルに絡む	6	疥癬症(かいせんしょう)	1
ネコ等に襲われる	3		
交通事故	3		
防鳥ネットに絡む	2		
放野数			
鳥 類	8		
哺乳類	0		



茅ヶ崎市内で保護されたフルマカモメを2023年11月8日に受け入れました。

※年末年始体制の為、2023年12月21日～2024年1月4日まですべての受け入れを休止。
※鳥類は、神奈川県内で高病原性鳥インフルエンザが確認された為、2024年1月5日～1月25日まで受け入れを休止。

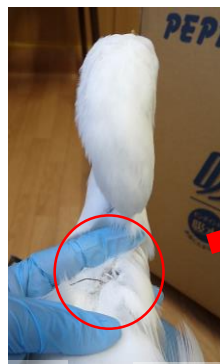
受け入れ報告

種 名 **ダイサギ** (サギ科)
受 入 月 2023年11月
救護場所 厚木市
救護原因 不明

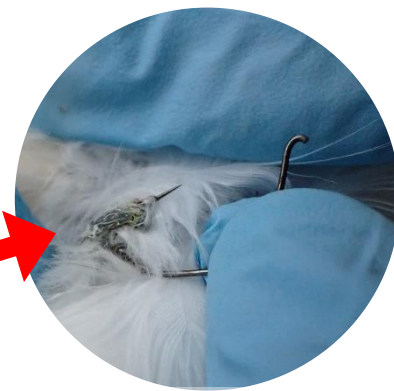
受け入れ時、左の大腿骨が骨折していて、首の後ろの皮フに釣り針が刺さった状態でした。点滴や注射など、できる限りの治療を施しましたが、残念ながら翌日に亡くなりました。骨が触れるほど痩せていたことを考えると、長い期間十分にエサを食べられなかったのかもしれない。一体どのように過ごしていたのでしょうか。



受け入れ時のダイサギ



背中側



刺さった釣り針

傷病鳥獣 持ち込みの際の お願い

- ・ 事前に電話で相談してください。
- ・ 保全センターに到着したら、**傷病鳥獣受付専用駐車場**に車を停めてください。
- ・ 専用駐車場以外では、**動物を車から外に降ろさないで**ください。
- ・ ご不明な点はお問い合わせください。

電話番号：046 (248) 0500

受付時間：10時～16時

休診日：月曜日・祝日の翌日・

年末年始(12/21～1/4)

※月曜日が祝日の場合と祝日の翌日が土日祝の場合は開館



相次ぐ衝突疑い

今期の救護原因1位の「ガラス窓等への衝突」の事案を紹介します。

衝突で多いのが、空や樹木が映り込んだガラス窓に、通り抜けられると思った鳥がぶつかってしまう事例です。数分～数時間脳震とうを起こすだけで回復する場合がありますが、衝撃が大きいと骨折したり、内臓を傷つけたりして死亡してしまうことも少なくありません。

ブラインドや白いカーテンで鳥に窓ガラスの存在を認識してもらうことで防げることがあります。

種 名 カワセミ（カワセミ科）
受 入 月 2024年1月
救護場所 小田原市
救護原因 ガラス窓等への衝突疑い

大きな骨折等はありませんでしたが、立つことができず、開口呼吸をしていて、血尿をしている状態でした。見た目では分からなくても内臓に強いダメージがあったと考えられます。

受け入れたその日のうちに亡くなりました。



種 名 ツグミ（ヒタキ科）
受 入 月 2024年1月
救護場所 横浜市
救護原因 衝突疑い

左眼周辺が腫れていて、下の嘴が骨折して口を閉じることができない状態でした。

全身で呼吸するほどの重篤な状況が続き、2日後に亡くなりました。



頻発！粘着シート

屋外に設置されたネズミ捕りなどの粘着シートに野鳥がくっついてしまう事案が続き、今期「粘着剤」は救護原因2位となっています。一例として平塚市から持ち込まれたイソヒヨドリを紹介します。

経緯としては、家の外にネズミ捕りシートを設置したところ、まずヤモリがかかり、翌日にイソヒヨドリがかかっていたということでした。ヤモリを食べようと近づいてしまったのかもしれません。

強力な粘着剤に一旦捕られると自力での脱出はほぼ不可能で、もがけばもがくほどに粘着剤が絡み、翼や脚が折れたり、そのまま餓死したりと、命に関わる大きなダメージを負ってしまいます。

今回の例では、保護した方が動物病院からのアドバイスにより、小麦粉やサラダ油を使用して、鳥を粘着剤から外した状態で持込まれました。たしかに、このような処置をすることもあります。油を使用すると、羽が濡れたままになり低体温になってしまったり、油を洗浄する作業で鳥の体にさらなる負担がかかったりして、死亡する可能性もあります。粘着剤からの救出は慎重な作業が必要です。

持ち込み後の救命率を上げるため、当センターでは、すぐに持ち込むことができない場合は、無理に剥がさず、これ以上粘着剤が絡まないように小麦粉をたくさんまぶして、そのまま暗い場所で安静にするようにご案内しています。このイソヒヨドリは幸い状態が良かったため、1月末に無事に放野することができました。

このように、無事に放野に至る例もありますが、やはりまずは鳥がネズミ捕りにかからないことが一番です。庭やベランダにいるのは人やネズミだけではありません。「ネズミ以外のものがかかるとは思わなかった」とならないよう、設置場所にはご注意ください！

種 名 イソヒヨドリ（ヒタキ科）
受 入 月 2023年10月
救護場所 平塚市
救護原因 ネズミ捕り（粘着剤）



油で濡れた腹側の羽(左)と尾羽(右)